

杉本 壽著

日本の陶磁(10) 越前

保育社のカラーブックス「日本の陶器」シリーズとしてこのほど刊行されたもの。「越前焼」については、奈良・平安の須恵器の時代から鎌倉・室町・江戸・明治時代を通じ、延喜式内大社、劔大明神の神領とする丹生郡織田荘を中心として発展しただけに、全国的にも「日本六大古窯」の一つに数えられるが、本書では各時代

の代表的なものを、美しい写真入りで解説しており、「越前焼」のガイド・ブックとしてもはなだ適切なものである。しかも歴史的な変遷や製作の技法等の論述については、きわめて啓発的なもので、さらに「越前陶芸村」のあらましをも興味ぶかく紹介するなど、ぜひ座右の教養書としておすすしたい。

(保育社、カラーブックス 四四五頁
四三〇円)

(以上の各書紹介は三上記)